

2. 既存住宅における床下換気システムの効果実験

実験条件と方法

日 時:2003年1月1日～2005年12月31日

場 所:福岡県太宰府市長浦台立地住宅(木造2階建) 築28年

実験条件: ブロー型 3台、攪拌型 2台、運転時間5h/日

※実験対象家屋は、大雨で床下浸水をおこしやすく悪条件の為、排気型換気扇を3台設置

測 定 点:①エリアA、②エリアB、③エリアC

※実験レイアウトは別紙参照

[実験内容]

実際の家屋に床下換気扇を設置し、その家屋の床下木材含水率を年間を通して測定し、そのデータから換気扇設置後の長期間に渡る効果を確認する。

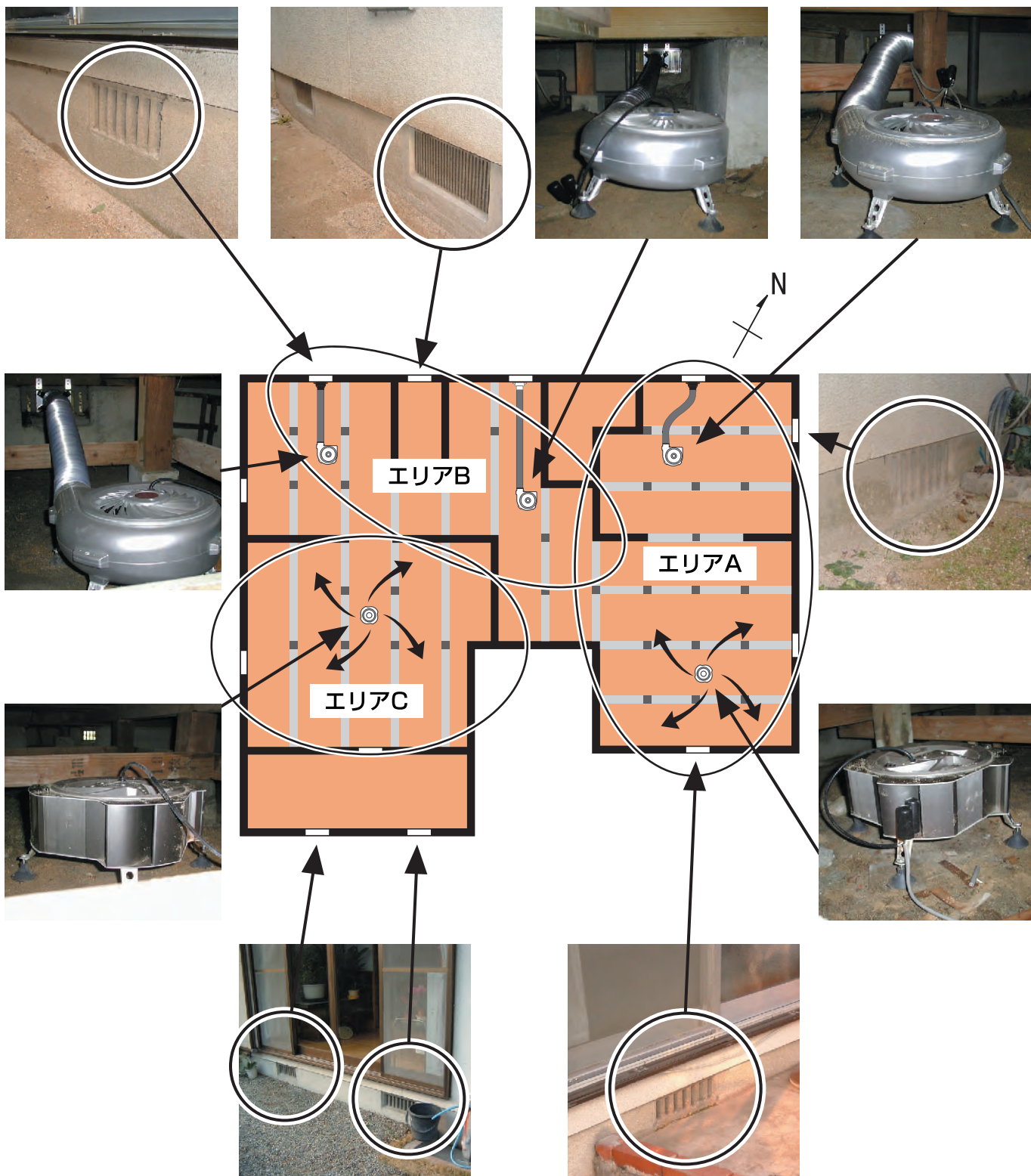
実験結果

※含水率推移グラフは別紙参照

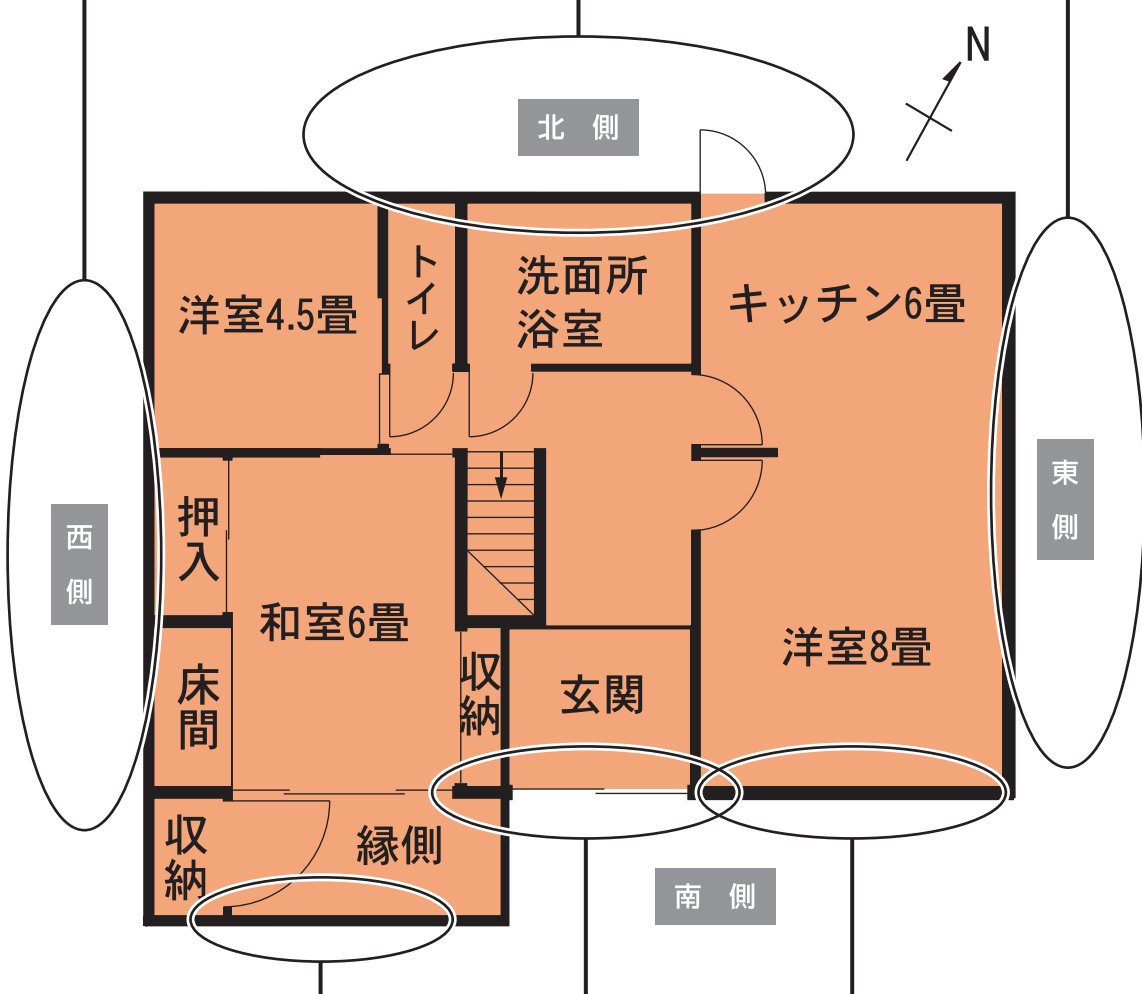
[実験結果]

各エリア別での木材含水率は、夏場上昇し、冬場は下降する季節による変化が見られます。夏場上昇する木材含水率を2003年と2005年で比較すると、2005年の方が低下しており、換気扇設置後は徐々に効果が表れると考えられます。

●実験住宅床下レイアウト



●実験住宅レイアウト



●2003 - 2005 エリア別含水率平均 - 水蒸気量グラフ

